

# 牧之原市から堂々と世界に羽ばたいた

## 「2023 ミス・ユニバース日本代表」

### 宮崎莉緒さんが世界大会出場を報告

自身が表紙の広報紙（令和5年11月号）と花束を手に笑顔で記念撮影に応じる宮崎さん

# 会出場「2023 ミス・ユニバース日本



#### プロフィール 宮崎莉緒（みやざき りお）

2002（平成14）年10月5日生まれの21歳。細江区出身。現在、都内の大学で幼児教育を学ぶ大学3年生。幼少期からチアダンスを習い始め、細江小学校1年生時にはJリーグクラブ公認の応援チアリーディングチームに所属。チアダンスの強豪校として知られる東海大静岡翔洋中等部・高等学校に進学し、チア&ダンス部で中学1年生時、高校3年生時に全国大会総合優勝を果たす。大学2年生時まで、プロ野球球団の公認チアリーディングチームに所属し、地域住民やファンに元気や勇気を与える活動を実施。昨年8月30日に「2023 ミス・ユニバース・ジャパン ファイナル」で優勝し、「2023 ミス・ユニバース 日本代表」となり、同年11月18日（日本時間11月19日）に中南米のエルサルバドルで開催された世界大会「第72回ミス・ユニバース」に出場した。

#### 市三役や地元区役員などが凱旋訪問を歓迎

令和5年12月12日、市役所棟原庁舎で、杉本市長や大石副市長、橋本教育長、テレビカメラや新聞記者など多くの報道機関が待つ中、宮崎さんは少し緊張しつつも堂々とした姿で会場に入り、市長などから盛大な拍手で歓迎を受けた。

市長から「おめでとう。お帰りなさい」と声を掛けられると、宮崎さんは「ありがとうございます」と少し照れながら笑顔で答えた。この後、市長からお祝いの花束を受け、市長との記念撮影などに応じた。今回の訪問には、地元細江区の中山区長をはじめとする区役員が同席した。

## 地元の皆さんの応援が力に子どもたちの将来のために貢献したい

### 牧之原市は自分の基盤本当に大好きなまち

まず、宮崎さんは幼少期にチアダンスを習っていたことを例に挙げ、自己紹介。「元々踊ることが大好きでチアダンスを始めた。チアダンスは集団で踊り、一人で前に出ることではないので20歳を節目に一人で表現できることは何かと考え、応募した」とミス・ユニバース応募の経緯を話したうえで、「牧之原市は温かい人

が多く、自分にとっての基盤。幼少期から環境に恵まれて育ってきたので感謝したい。本当に大好きなまち」と市への思いを述べた。

### 世界を見て視野が広がった私にできることはもっとある

日本代表になってから世界大会開催までの約2カ月間は、訓練や準備などで非常に忙しかったと言いつつ、「大会開催中の約2週間は、各国代表と

共同生活をしてコミュニケーションを取るため、日本にいる外国人の家庭で生活するなどして、苦手な英語をとにかく特訓した」と苦労した点を話してくれた。

「世界大会に向かう前日に地元の新聞に載った大勢の市民の皆さんからの応援メッセージや市役所に掲げられた懸垂幕を家族から写真で送ってもらい、友人や知人からも多くの連絡が来た。辛い時などにそれらを見て、本当に力になった」と感謝を表した宮崎さん。

市長から世界大会を含めた感想を聞かれた際には、「目標であった『世界大会で結果を残すこと』ができずに悔しかったが、同世代の女性が世界で活躍する姿を見て視野が広がった。もっと自分が日本でできることがあるのではと感じた」と世界を経験した中での気持ちに触れた。

今後は、大好きである子どもにも視点を置いた活動がしたいという宮崎さん。「世界では子どもたちの未来が失われていることもある。今回の貴重な経験を生かして、大好きな子どもたちの将来のために貢献していきたい」と力強く、今後に向けて抱負を語ってくれた。

### 「ミス・ユニバース (Miss Universe)」

ミス・ユニバース（世界大会）は70年以上の歴史があり、世界80カ国以上の代表と共に世界一の栄冠を競い合う国際的なミス・コンテスト。世界的に知名度が高く、世界四大ミスコンテストの1つである。日本代表の選考基準は、外見の美しさだけでなく知性や人間性などの内面に加え、社会に積極的に貢献したいという社会性やスピーチ力を備え、各国の代表と対等に交流できる国際的な女性像が求められる。今回の第72回大会は全世界から84カ国の代表が出演し、水着やドレス、各国の民族

衣装などでPRし、約2週間にわたる審査が行われ、ニカラグア代表が優勝した。ミス・ユニバースはトランスジェンダー（体の性と心の性が異なる人）の女性候補者を受け入れている唯一の主要な国際イベントで、今回から婚姻歴のある女性や出産経験者も出場が可能になり、各国から多くの女性に可能性の門戸を広げた記念すべき大会となった。結果、2人の母親と2人のトランスジェンダーの候補者が出場するという、これまでにない多様性に富んだ大会となった。



棟原庁舎に掲げられている懸垂幕を撮影する宮崎さん



「第72回ミス・ユニバース」(エルサルバドル)のステージ



杉本市長からお祝いの花束を受け取る宮崎さん